

内服薬の自己管理に対する看護師の意識調査 －内服薬自己管理適応アセスメント用紙活用に伴う内服事故への反映－

key word 自己管理 看護師管理 アセスメント
7階 ○古原真澄 斉藤亜希子 本嶋舞美 山中絵津子

はじめに

私立大学病院の短期病棟の特殊性として、1泊から約2週間での短期間の入院が多く、入院後持参薬を継続して内服するケースや検査後・手術後から内服薬が開始となるケースが多い。与薬方法として看護師管理と自己管理の二通りをとっている。

入院時持参薬がある場合や入院後から開始となった内服薬がある場合は、院内統一の内服自己管理適応アセスメント用紙(以下アセスメント用紙)を用いて内服の管理方法を決定し与薬する事としている。約半年間のインシデントレポートを調べた結果、自己管理・看護師管理共に内服事故が多い事が分かった。また自己管理率が低く、看護師がアセスメント用紙を活用し自己管理の可否を判断しているのか疑問に思った。そして看護師のアセスメント用紙に対する意識及び使用率を明らかにする事で内服事故との関連が見出せるのではないかと考えた。先行研究では自己管理の判断過程に関する研究はされているが、アセスメント用紙活用による内服事故への反映についての報告はない。そこで看護師のアセスメント用紙の活用状況、意識調査(アンケート)を実施した。又、9月より配属となった病棟薬剤師に入院時持参薬がある場合アセスメント用紙を記載してもらうよう協力を求めた結果、看護師のアセスメント用紙の活用率が増え、意識が高まったためここに報告する。

I 研究方法

1. 対象：病棟看護師18名(管理者は除く)
2. 研究期間：平成18年8月21日～11月1日
3. 調査方法
 - 1) 入院時のアセスメント用紙記入率を調査(持参薬のある患者30名 緊急入院・転入患者を除く)
 - 2) インシデント・アクシデントレポート数の集計(研究期間中)
 - 3) 看護師のアセスメント用紙に対する意識調査(アンケート)
 - 4) 入院時持参薬がある場合、まず始めに薬剤師がアセスメント用紙を用いて○または×を記載し、それを基に看護師が査定を行う
 - 5) 査定されたアセスメント用紙を各患者の処方箋と一緒に保管する
 - 6) 薬剤師介入後、入院時のアセスメント用紙記入率を調査(前回と同様)

- 7) 薬剤師介入後の看護師のアセスメント用紙に対する意識調査(アンケート)

II 倫理的配慮

研究目的を説明し、研究以外には使用しない事を伝え、同意を得られたスタッフを対象とした。又、個人が特定されぬよう配慮した。

III 結果

アンケートの回収率は100%。アセスメント用紙の活用状況は持参薬のある患者30人に対しアセスメント用紙使用数は4人(13%)だったが、自己管理にしていたのは10人(33%)であった。入院後開始となった内服薬のある患者数16人(53%)に対しアセスメント用紙使用数は0人だったが、自己管理にしていたのは2人(6%)であった。

「アセスメント用紙を知っているか」の質問は全員が知っていると答えたが「入院時持参薬がある時にアセスメント用紙を活用しているか」には「必ず活用」と答えた人は0人。「アセスメント用紙を活用せずに自己管理させた事があるか」の質問に「はい」と答えたのは13人(72%)。アセスメント用紙を用いずに自己管理をさせている時の判断として「入院前自己管理をしていた」「年齢」「薬の副作用が言える」「内服方法が言える」「患者から自己管理の希望がある」「短期間の入院」と答えたのは全体の63%であった。その他として「病棟入院歴が多く毎回自己管理をしている」「内服回数が少ない」という意見があった。又「入院後開始された薬がある場合アセスメント用紙を活用しているか」の質問に「必ず活用」と答えたのは0人であった。「入院後開始された薬に対しアセスメント用紙を用いずに自己管理させた事があるか」には「ある」と答えたのは10人(56%)であり、判断項目は入院時に自己管理させている時と同じ項目が半数を占めている。「現在使用しているアセスメント用紙を用いる事で内服事故防止につながるか」の質問に「はい」と答えたのは15人(83%)であった。「いいえ」と答えたのは3人(17%)であり、その理由として「実際に自己管理が出来ていても時折、患者や看護師のミスで事故は起こる為アセスメント用紙を利用する事で内服事故防止になるとは言いきれない」「アセスメント用紙は内服の事故防止を目的としているのか?」という意見があった。

薬剤師介入後のアセスメント用紙活用状況は、持参薬のある患者30人に対しアセスメント用紙使用数は19

人(63%)、その内自己管理していたのは12人(40%)であった。又、入院後開始となった内服薬のある患者数13人(43%)に対し、アセスメント用紙使用数は2人(2%)、その内自己管理していたのは1人(1%)であった。

「持参薬があるとき薬剤師が記入したアセスメント用紙を基に査定を行っているか」の質問に「必ずしている」と答えた人は11人(61%)であり、「以前と比べアセスメント用紙を用いて査定をしているか」の質問に「はい」と答えた人は15人(83%)であった。「薬剤師が記入したアセスメント用紙を基に査定せず患者に自己管理させたことがあるか」の質問に「ある」と答えたのは4人(22%)であり、査定せず自己管理させている判断基準は前回アンケート結果と同様であった。「保管場所を変更した事で以前よりアセスメント用紙を使用しなければならぬという意識を持つようになったか」の質問に「はい」と答えた人は18人(100%)であった。また「看護をするうえで参考にしたか」の質問に「参考にした」と答えた人は15人(83%)。「入院後開始された薬がある場合アセスメント用紙を活用しているか」の質問に「必ず活用」と答えたのは4人(22%)であった。「現在使用しているアセスメント用紙に薬剤師が介入し看護師も査定する事で内服事故防止につながるか」の質問に「はい」と答えたのは18人(100%)であった。

内服に関するインシデント報告数は、薬剤師介入前3件。介入後5件。全て看護師管理による報告であり自己管理による報告は無かった。アクシデント報告は無かった。

Ⅳ 考察

薬剤師介入前のアンケート結果より看護師全員がアセスメント用紙の存在を認識し、又活用する事で8割近くが内服事故防止につながると考えている。しかし、半数以上の看護師がアセスメント用紙を活用せず自己管理をさせている事が明らかになった。アセスメント用紙の活用率が低い原因として、短期入院や患者から自己管理の希望があるといった漠然とした理由がある事が分かった。又、査定するに当たり看護師各自がアセスメント用紙を用意しなければならないという環境があり、アセスメント用紙を使用せずに管理方法を決定していたと考えられた。その為、自己管理が可能な患者も看護師管理とし、業務内容も増え看護師による内服事故の原因の一つと考えられた。そこで9月より配属となった病棟薬剤師に協力してもらい、薬剤師に対する専門的な視点と看護師の視点、双方からの評価でアセスメントの質が上がる事につながるのではないかと考え病棟薬剤師の介入を試みた。更に薬剤師評価後のアセスメント用紙を持参薬とともにクリップし、確実に看護師の目にとまるようにした。結果、持参薬アセスメント用紙活用率が4人(13%)から19人(63%)と増加し、看護師全員がアセスメント用紙活用により

内服事故防止へとつながると答えており、アセスメント用紙活用に対し意識が高まったといえる。又、アセスメント用紙を処方箋と一緒に保管する事で与薬する看護師の視野に入り、全ての看護師が患者の内服に関する理解度を把握する事ができ、アセスメント用紙活用の意識づけにつながったのではないかと考えた。古本ら¹⁾は『アセスメントシート』は危険因子がアセスメント項目になっている為、看護実践現場で素早く危険因子を抽出できると述べている。従ってアセスメント用紙で査定した結果、自己管理及び看護師管理に決定しているならば、どちらの方法であっても内服事故が起こらないよう看護師各自責任を持ち与薬する必要があると考える。

調査をすることで、現在入院時の持参薬に対する意識が高まり、アセスメント用紙利用率は増加したが、入院後開始された内服薬に対して未だ低いことが分かった。治療効果をあげる為には確実に内服する事が重要であり、短期間で退院後も内服管理が正確に行えるよう支援していく必要がある。今後は入院後開始された内服薬のアセスメント用紙利用率が増加するよう工夫していかなければならない。

今年度より正式に薬剤師が配属された。薬剤師、医師、看護師それぞれの専門的視点からの情報交換を行うことでより良い医療が提供出来ると考える。今後も看護師だけでなく薬剤師など他職種とも交流を図り医療の向上に努めていくことが大切ではないかと考える。

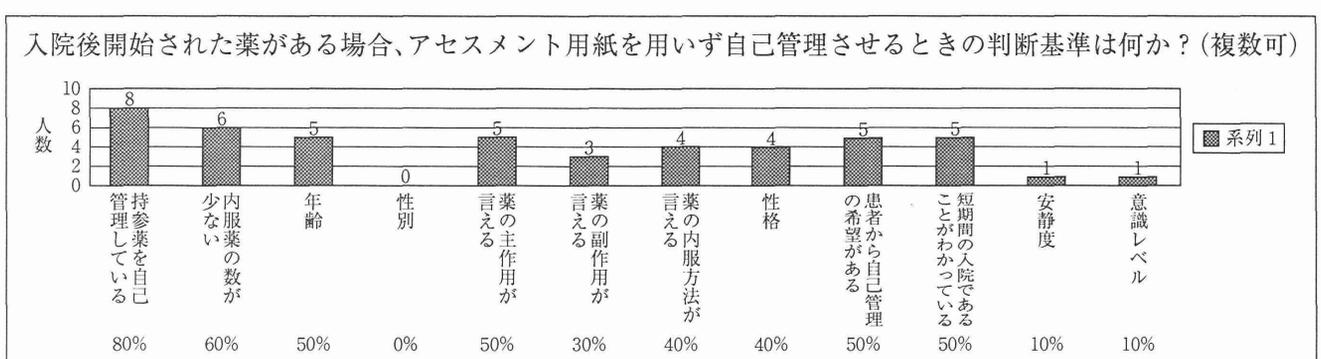
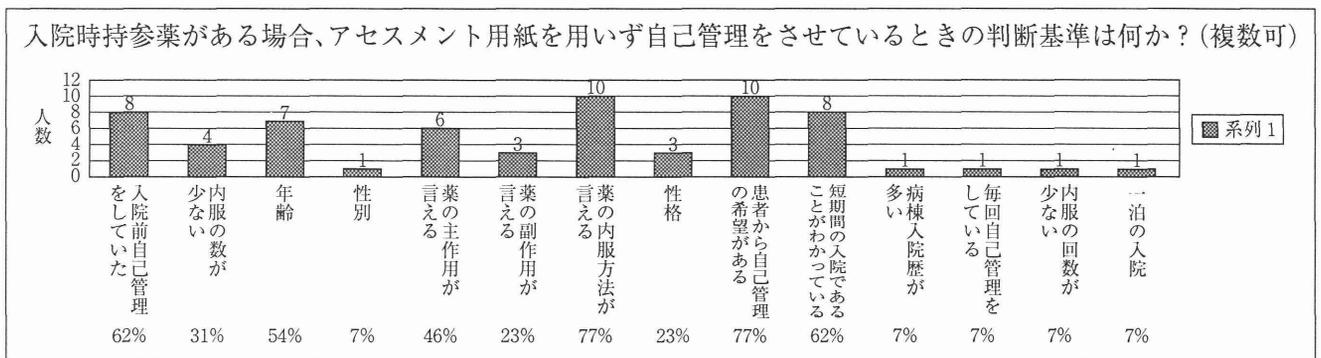
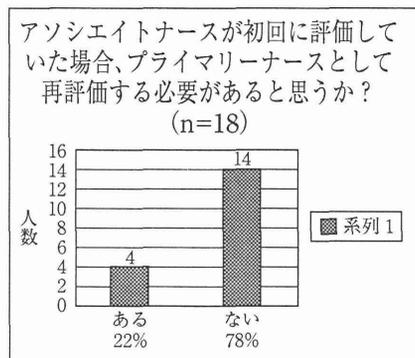
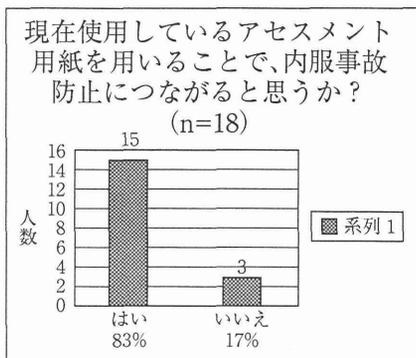
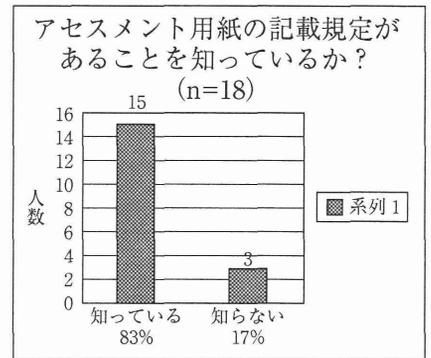
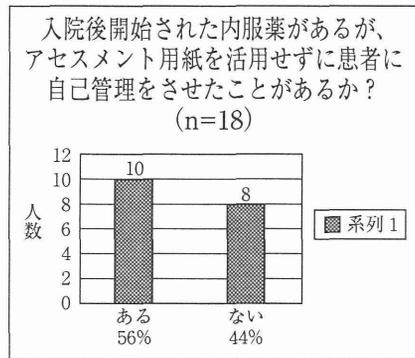
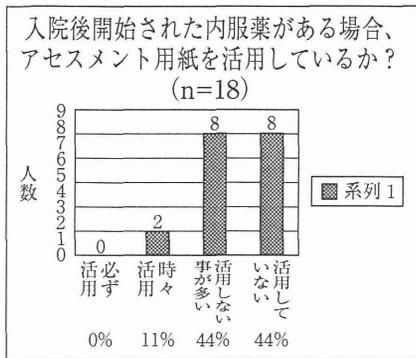
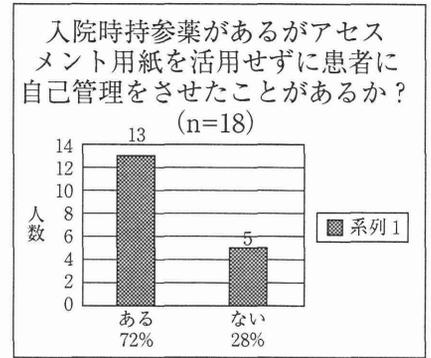
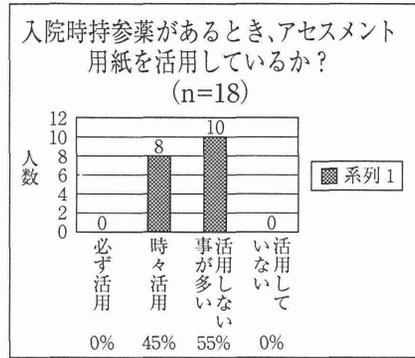
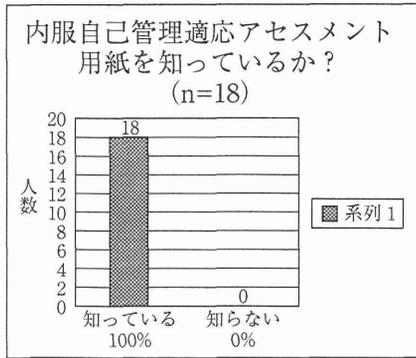
Ⅴ 結論

1. 薬剤師介入と保管場所の変更によりアセスメント用紙の利用率は増加し、意識も高まった。
2. 多数の看護師がアセスメント用紙を活用することで内服事故の防止につながると考えているが、研究期間も短かったこともあり今回はインシデント減少には反映出来たかは不明である。
3. 入院後から始まる内服薬に対する効果的なアセスメント用紙の活用方法が見出せなかった為、今後も継続した研究が必要である。

引用・参考文献

- 1) 古本光子, 和名谷まり子, 中江孝子. 看護現場でのリスクの把握:アセスメントシート・行動確認シートを活用して. 日本看護学会論文集(看護管理). 33, 287-289, 2002.
- 2) 小林さえ子, 笠原弘子, 中里友紀. 内服薬を自己管理する上での看護師の判断過程の明確化. 日本看護学会論文集(看護管理). 34, 80-82, 2003.
- 3) 山口裕美, 森佳代子, 間瀬照美. 患者に適した内服管理方法確立への取り組み:フローチャートを導入して. 日本看護学会論文集(成人看護Ⅱ). 35, 208-209, 2004.

薬剤師介入前の看護師意識調査



薬剤師介入後の看護師意識調査

